



200号記念企画

令和の時代に危険物保安技術協会様に期待すること

一般社団法人日本化学工業協会 常務理事
尾崎 智



まずは、貴協会の機関誌である「Safety & Tomorrow」の第 200 号発行、誠におめでとうございます。昭和、平成、令和を跨ぎ、これまで発刊を続けてこられた貴協会のご担当を称賛したいと思います。

さて、同じように日本の化学産業は3時代を跨ぎ、これまで営みを続けてまいりました。色々なトラブルは社会問題にもなり、その度毎に保安に係る先達は苦労を重ねてまいりました。保安の成熟期に入った化学産業も 2007 年以降ベテラン層の定年が本格的に始まりましたが、技術伝承については若干沈静化したように見えます。一方で毎年のように全国のいたる所で激甚災害が発生して化学工場にも爪痕を残しています。

化学産業が置かれている課題は、「設備の老朽化」、「技術伝承」、「生産、保安人材の不足」、「頻発する風水害」、「予測不可能な大型地震」は依然として変わらず、工場の内にも外にもいろいろな課題があるというのが、化学に係る皆の共通認識だと思います。我々が対応すべきことは、悪化するものはそのスピードを遅くし、限界点を超える前に早めの補修や交換を促し、不足しているものであれば代替するものを探して採用し、発生したトラブルは最小限に抑え込むということが肝要だと考えています。

この様な変則的な外乱に対し有機的な対応をしていくのは結果、「人材」であります。残念なことに日本の資源は豊富ではありません。日本の産業を支えている化学産業は国際競争に勝ち抜き続ける必要がありますし、その源泉になるのはやはり「人材」であり、大切な資源であります。

これからの化学産業で活躍する人材を育てていくことは、尚一層大切なことだと考えています。なぜならば、これからの人材は従来の製造設備のオペレーションやメンテナンスの基本的な原理原則を理解し実践で活用できる人材に加えて DX やグリーンイノベーションの様な特殊な領域に対応していくことが必要となってきます。

学校から化学業界へ排出できる人材の絶対数は今後少なくなるでしょうし、ましてこのような特殊な領域に対応できる人材も現時点では希少です。これからどのように獲得していくか、育成していくかが業界にとって大きな課題になっていくと思われまふ。一つの対応として人事制度を本気でダイナミックに変更してベテランの雇用をもっと長く設定し確保するとか、女性が結婚出産した後も楽に働ける職場環境・雰囲気在全企業的全職場で作出すことが必要となるでしょう。その間に現役の社員の中から特殊な領域に適合した人材を育成していくしか他にありません。また、オペレーターや保全業務に携わる社員への負荷を極力自動化することにより大幅に縮小し、異常現象の予兆もオペレーターに対して早く気づきを与え、また、設備故障の予兆も早くできる様にしなければなりません。動機器に関してはセンサーを設置してプロセスのデータとの関連性を AI などで関連付けることで、人が検知するよりもはるかに早く予見するようになっていますが静止機器に関してはまだまだ技術的なハードルが高いと考えています。

昨年 7 月から 9 月にかけて東京オリンピック・パラリンピックが行われました。パラリンピックの生みの親でもあるルートウィッチ・グットマン博士は「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に活かせ」という言葉を掲げ、リハビリにスポーツを取り入れました。現在の日本の様に資源が乏しい国にとって素晴らしい言葉だと考えています。

金がない、人がいない、時間がない、設備が古い・・・と愚痴を言っても仕方ありません。企業の経営者はビジョンと信念を持って突き進むしかありません。

この様な令和の時代が進む中、危険物保安技術協会様へは DX を意識しつつ既存の設備のハードフェアに関する保安のコンサルティングはもちろんのこと「人材育成」には更に傾注していただきたいと思っております。また、これから益々進化していく設備検査に関する「新技術」の開発や発信、普及に一層努めていただきたいと考えています。